

## 第4回 小淵沢駅周辺地域活性化計画策定委員会会議録

- 1 会議名 第4回 小淵沢駅周辺地域活性化計画策定委員会
- 2 開催日時 平成25年2月28日(木) 午後1時30分～3時35分
- 3 開催場所 北杜市役所本庁西館特別会議室
- 4 出席者(敬称略)  
出席者  
卯月 盛夫、浅川 健圃、茅野 貫一郎、藤森 和夫、高田 一彦、上村 玲子、  
跡部 和典、齊藤 満、茅野 光一郎  
欠席者  
坂本 伴和、熊倉 純子、小林 伸一  
事務局  
深沢 朝男建設部長  
由井 秀樹小淵沢総合支所長  
田中 幸男まちづくり推進課長、  
まちづくり整備担当リーダー中澤 貞夫、担当 功刀 政司、高橋 剛  
東京芸術大学  
北川原 温、小林 大祐、山崎 日希、外5名  
会議録署名委員  
齊藤 満、茅野 光一郎
- 5 議題
  - (1) 開会
  - (2) 会長あいさつ
  - (3) 今後の予定
  - (4) 協議事項
    - ①小淵沢駅周辺地域活性化施策について
    - ②小淵沢駅舎・駅前広場整備について
    - ③その他
  - (5) 閉会
- 6 公開・非公開の別  
公開
- 7 傍聴人の数  
4人

## 8 協議内容

- ・小淵沢駅周辺地域活性化について

北川原研究室より報告を行った。

(会 長) 今日は新たに、ガラスと言うすばらしい提案をいただきました。ぜひ皆様のご意見をいただきたいと思いますので、気付いたことがありましたら発言していただきたい。

(委 員) 今回地域の活性化について意見交換をするという事でしたので、私なりに色々と考えてみました。

総論では、地域の特性を活かして何かをやるべきだということは頭では理解出来るのですが、いざ各論になると具体的に何をすれば良いのか、なかなか出てきません。ただ、今の説明を聞いていますともっともだと思ったり理解も出来るのですが、これらの他には食べ物ということは出てこないのでしょうか。例えば佐野ラーメンとか、吉田のうどんなんかもそうですが、こういうことをするとリピーターなどを幅広く集めることは可能だと思います。それと同時にやはり、地元の人達を集めるということが必要ではないかと思えます。地元と言っても北杜市だけではなくて、山梨県内や近隣の長野県の人達を集めるためには、食べ物なんかを一つの売り物にしたら良いのではないかと考えていました。吉田では30年位前からうどんを名物として始めまして、最初は一般の家で昼時だけ座敷の襖を外して座卓を並べてお客さんに食べさせていた。地元の人達は毎日のように通ったりしていたわけですが、それがだんだんと有名になって県外からも来るようになり、東京の方でも吉田のうどんは有名になっていきましたし、中央自動車道の談合坂サービスエリアの下り側には、吉田のうどんを販売しています。時間はかかるかもしれないけれど、地元の人や近隣の人を集めるという意味で、例えば小淵沢駅周辺の食堂で特定の食べ物を考えて出すという取り組みについて考えてみました。

(会 長) ありがとうございます。食べ物という意見がありましたが、他にございますか。その意見に反論していただいてもよろしいかと思いますが。

(委 員) 観光協会で調査したのですが、小淵沢町内では約80件近くの飲食関係のお店があります。あらゆるジャンルの食があるのですが、特色のある全国的にも有名になるような作戦があれば、希望を持てるのではないかと思います。

(会 長) 小淵沢に来たらこれを食べようというものは無いのですか。

(委 員) ほうとうを扱っているお店もありますが、小淵沢だけで食べられるものではないですから。

(会 長) わかりました。

食べ物以外のことでも結構です。今のプレゼンテーションで気が付いたこととかございませんか。

(委 員) 今、遊休農地がものすごくあります。手間はかかりますが、せつかくなので蕎麦でも育てて、小淵沢としての蕎麦を作りあげてはいかがでしょうか。

(委 員) 私共はずっと前から蕎麦は富士見町へ食べに行っていました。富士見では蕎麦を作り、蕎麦打ちの体験をさせたりもしています。富士見町にあった蕎麦を挽く水車を須玉町にもどうかと考えまして、増富の蕎麦屋に小さい水車を作ったりもしました。お昼になるとお客さんが大勢来ます。

富士見町の蕎麦も色々な事業の補助があつての成果ではないでしょうか。先程の話のとおり、遊休地のようなものがあればぜひ蕎麦なんかはどうでしょうか。これは北杜市全体を考えた取り組みとしても良いのではないかと思います。

(委 員) 確かに蕎麦は長野県が主流ですよ。有名でもあります。遊休地を使ってということになるとやはり補助金や助成金が無いとなかなか難しいのではないかと思います。

今言われた蕎麦やほうとうやうどんは、よほどの特色を出さない限り、集客というのはなかなか難しいと思います。だからそれ以外で何かあればこれに越したことは無いのですが。私には答えは出せない。そんな状態です。

(会 長) 聞いていて思ったのですが、ガラスの提案があつたわけだから、蕎麦の器ということもあるわけで、蕎麦と器の組み合わせなんていうのも考えても良いのかと思いました。実際にやる人がいるかどうか別にしてですが。遊休地というのは重要なご指摘かもしれません。

食べ物に限らなくて結構です。他のテーマでも良いかと思いますのでご意見をください。

(委 員) 遊休地の活用については、各町では進んできています。そのような中で遊休地は土地が痩せているところが多いので、これまでも蕎麦はやってきています。

私は大泉町のそば組合にも携わってきましたが、今は蕎麦だけでやっていくのは採算が取れない。国からの補助があるので成り立っているという状況のようです。

あるところから話が来まして、北杜市で作られている蕎麦の特徴は何かという質問をされましたが、たくさん関係者に聞きましたが誰も北杜市の蕎麦の特徴を言えませんでした。どういう成分が多くて、こういう特徴があつて、健康食品としてはこうである。ということと言えないのが現実です。蕎麦は一例ですけど、食品を開発する上で、健康上このような効能がある。他の蕎麦と比べてこういう特徴がある。こういったものを提供できなければならないと思う。

もう一つは、北杜市は水が良いわけですが、水を使った淡水魚の養魚場がいくつかあります。こういった淡水魚を使った食品を提供するとかも考えられるかと思います。水と魚の関係。きれいな水で育てられたきれいな淡水魚も

一つの資源だと思います。

(会 長) 食べ物の方向に進んでいます、全然かまいません。他にございませんか。

(委 員) 提案されましたガラスの事についてですが、実は私はアール・ヌーボーのガラスなんかが好きで前にいたところでは、事業としてやっていました。今は美術館を整理しているところですけども、ガラスに興味を持つお客さんはすごく多いです。ガラス工房で器を作ったり、トンボ玉を作ったり、こういうことにお客さんが結構来たりします。ガラス工芸がうまく育ってくれば良いなと思います。心にゆとりが生まれますし、鑑賞することで癒しにもなります。

もう一つはガラスではない器ですが、焼き物についても北杜市には色々な遺跡が出ています。土器などをイメージした器で蕎麦なり商品を提供する。ガラスに限らず焼き物も場合によっては北杜市内の数ある遺跡を後世に残すことに繋がっていくのではないかと思います。

(会 長) おいしい水なら美しいグラスで飲みたいですね。そういう組み合わせを考えたら結構面白いと思います。

(委 員) 小淵沢では名水があります。湧水が豊富で、お米も梨北米ということでたいへんおいしいと評判です。上笹尾区の中で、農林水産省の補助金を利用して紫黒米という紫色で黒いお米を作っています。これがたいへん作るのが難しく、環境の変化で色が黒くならない場合もあるようです。そのお米を使ったチーズケーキなどお菓子の試作を行っているところです。試食も何回も行っているのですが、東京農大の女性の皆さんや NPO の方達の協力をいただいて、今後小淵沢の特産品になれば良いなと思い事業に取り組んでいます。

(副会長) 小淵沢をずっと見ていると、中央本線と小海線が作られてからはずっと良くなっていますが、中央自動車道のインターチェンジが小淵沢の真ん中に造られてから変わり始めました。

高速道路が開通したことで、日本の交通網が変わり、車社会となっていきました。小淵沢全体の商店数を見ても駅前にもありますが、7割以上が中央自動車道よりも北側のエリアに集中しているのではないのでしょうか。インターから北側の交通量とインターから南側の交通量と比較してみても、インターを降りた車はほとんど北側のエリアに行ってしまうている。確かに北側のエリアには様々な施設が揃っています。

駅前の活性化を考えた場合、駅の利用者が増えてほしいが、例えば甲府の駅前に住んでいる人達だけに期待をするのかという話です。最近では甲府の中心より郊外に住む人の方が多い。駅が遠いため出かける時は車を出さなければならないのに、その人達がわざわざ甲府駅から電車に乗り換えて小淵沢まで来ることは考えにくい。小淵沢に来るお客さんの多くは車で来なければならない状況なのかもしれません。

小淵沢の駅にお客さんがもっと来てもらいたいですし、小淵沢の人達にはもっと駅を使ってもらいたい。しかし先程申しましたが、車で来なければならない事情のお客さんも多い。小淵沢に住む若い人達は勤めに行くにしても車を利用しますから駅前からどんどん離れてしまいます。

いかに駅前に車のお客さんを呼べるか。それとも電車のお客さんに期待をするのか。たいへん難しいと思います。

昔は小淵沢の商店街は長野県の富士見町や原村から多くの人達が来る程でした。逆に今では我々が買い物に行くというと富士見町に行くようになりました。なぜこのような現象が起きたのか。残念ではない。

そんな中、小淵沢でも良いことがあります。空き家募集の広告が頻繁に入ってきます。これは恐らく小淵沢に来たいという人がいて、空き家を探しているからだと思います。小淵沢に来たいという人達がいるということは確かです。北杜市の他の地域では空き家が問題になっていますけど、小淵沢にはない。それだけ小淵沢には人が住んでいるということだと思います。

(会 長) ありがとうございます。とても重要な指摘で私も先程のプレゼンテーションを受けたときに回遊性と言った時はどういった交通手段を考えるのかなとふと思いました。これからの課題だとは思いますが、回遊性の中にインターチェンジをどのように位置づけるか。それから域内移動と言いますか、外から来る場合は電車ですとか自動車とかで当然良いのですが、中の移動をどのようにとらえるかということをお今の発言であったように頭に入れておいた方が良いでしょう。

(委 員) 個人的な考えなのですが、小淵沢周辺を上から見た時に、どういう地域にマッチしているのかと考えると、今現在ですとやはりアートに絡めた地域が似合っているのかなと感じます。先程のプレゼンテーションの中では、ミュージアムリンクという話がありました。小淵沢町を中心にした考えになってしまうかもしれませんが、八ヶ岳を取り巻くように小海から清里そして小淵沢。そこから茅野市、上諏訪とリングのようにぐるっと回っている訳ではないですけど、繋がりが生まれていて、そういったネットワークを使って徐々に盛り上がりを見せているようです。言えばアートに適した地域になって行けば良いなと感じます。

そこに降り立つ点と言う場所が小淵沢で、そこから線を結んでいく。小淵沢を中心にアートの施設が20から30くらいはあるのではないのでしょうか。おそらく全国でもこのような地域が他にあるかと言われれば、言い過ぎかもしれませんが、非常にそういう点では立地条件が良い。アートルインと言いますか、アートのシルクロードのようなものを作るとか、面で考えれば八ヶ岳南麓がアート村のような表現が出来ると思う。

今度、中部横断道が整備されるように、私共は積極的に推進している訳ですが、交通の便がいちだと良くなると思います。東京という非常に大きな人口が2時間程で小淵沢に来ることが出来る。例えば駅に降り立った時に小淵沢はどのような場所なのだろうとお客さんが思うでしょう。日帰りで回遊が出来る。私はこのようなことがうまく当たるような気がします。非常に魅力があると思います。

小さいことで事例を申し上げますと、先程食べ物のお話が出ましたが、小淵沢で焼き肉の店があります。関西や東京からお客さんが来ており、いつでもいっぱいです。こういう魅力のある店というのが、距離が遠いとかではなく、わざわざ食べに来るわけです。あるいはウナギの有名な店もあります。やはり多くのお客さんでにぎわっています。もっと言いますと、北杜市には10件以上の温泉施設がありまして、この中で一番業績が良いのが、小淵沢の温泉施設です。たくさんのお客さんが温泉を利用しているからです。この温泉の隣には道の駅がありまして、既存の駐車場が狭いから広げて欲しいと言われるくらいたくさんのお客が訪れている。ということで、小淵沢にはお客さんは来ているわけです。

高原という場所で特徴のある何か魅力をつけると、お客さんは集まってくるような気がします。トータル的にはアートの地域にしてそれが広がって、食べ物だとか観光の面に広がって行けば良いなと思います。

(会 長) ありがとうございます。聞いていまして、八ヶ岳広域観光圏というかなり広い領域の中で見ると、アートにしても食を絡めたものにしてもけっこう魅力のある感じがするのですが、では駅周辺はどうなのかとなると、魅力はどんどん郊外化してきて街の中心から逆に逃げて行っており、それはインターチェンジなんかも助長しているのではないかと思います。もう少し街中に焦点を当てても良いと思いますが、街中にも可能性はありますか。

(委 員) 正直に言いますと、15年くらい前から駅前の商店街をなんとかしようと思いついて、色々な形でみんな頑張ってきたのですが、ご承知のとおり時間を費やして、お金を費やしてやってきましたが、今の状況から脱していない訳です。それには色々な理由があるのですが、道が狭いとか高齢化と後継者がいないということなどあります。

商工会館が商店街の中心にありまして、以前そこにミュージアムを作ろうという話が持ち上がったことがありました。商工会館の場所を買い取り開発する。人が集まるようになったら、商店街でも力を入れて物を売ろうと頑張ろうとは思っているのですが、現状で商店街に頑張って売り上げを上げると言っても無理です。商店街の中心に何か集客できる施設などができれば、自ずと広がっていくのではないかと考えています。例えば、先程紹介のあった外国の工芸家の

作品や東京藝術大学の学生さん達の作品をお借りして、それをスタートとして始めてはどうでしょうか。ただ、これらはお金がかかることです。行政の方ですんなり、施設を建てるとか出来れば良いのですけど。そのへんはこれからの検討だと思います。

(会 長) 商店街について意見が出ましたから、北川原先生に一言いただきたい。

(北川原) やはり地元の方々から始まって、盛り上がっていき、私共がお手伝いして面白くしていくという形が理想だなと思っております。先程プレゼンさせていただいた中で申し上げたように、やっぱり地元の方の強力なリーダーシップと言いますか、一人以上の年齢に関係なく地元を引っ張っていく方がいらっしゃれば、そういう方々と私共で議論し具体的な提案をしていきたい。考えているだけでは駄目で、行動に移さなければならぬと思っていますので、今後の課題としては、ぜひ小さなことでも良いから、まず一つとにかくやってみる。そこから可能性を発見して次のステップに行くというように考えております。今日はガラス工芸という具体的な一つのアイデアとして提案させていただきましたが、私はこれまで頭をめぐらせてきた中で、ガラス工芸はあるのではないかなと直感なのですが感じています。小淵沢は空がきれい、太陽が輝いている、星空もきれい、水がきれい、食べ物がおいしい。先程から話にも出ておりますが、たいへんおいしい水があって、おいしい蕎麦も出来る。こういう話と繋がっていくのはやはりガラスなのかと思います。

ガラスと言うのは生活用品として欠かせないものです。先程会長がおっしゃったようにおいしいものを食べる時は水というのはたしかに大事だなと私も思うのですが、生活の中に溶け込んでいるのなら、それが一つのその地域の産業になっていき、それがいずれ世界に繋がっていく。そのポテンシャルが小淵沢の自然、それから里山の水の中にあるのではないかと。たいへん直感的ではあるのですがそう思っています。またこれには私共の大学では人為的なネットワークなんかも協力できると思います。

(委 員) 先程、出た意見ですが、インターチェンジが出来てからその周りだけは賑やかです。私達のような小淵沢以外の町民が見ても駅前はかなり寂しい感じがします。駅に人を集めるという意味で、一時あったSLというのはいかがでしょうか。大井川鉄道で実施していますよね。

(委 員) 年に一度くらいですが、中央線でもJRの主催でやっています。それなりの人達が集まります。

(委 員) SLが駅を使うということであれば、駅に人が集まると思います。大井川鉄道の始発駅も結構人が集まりますが、SLを定期的に走らすということは出来ないのでしょうか。

(委 員) 小海線のカーブでSLを走らせばものすごく人が集まりますよ。

(委員) 小海線にはSLがありますからね。

(会長) 他にありますか。

(副会長) 先程出た意見で、芸術村というのは私も良い意見だと思います。私もガラス美術館や彫刻の森とかにも行きます。人も集まりますし。芸術の村あるいは彫刻の村というのは、小淵沢には公の土地がたくさんありますから、貸し出せると思います。アカマツ林なんかも利用して芸術村を作って、東京などから運転免許を持っていないような若い人達を呼んだらどうでしょうか。

東京からお客さんと呼んで、北杜市内にあるたくさんの美術館とリンクし、高い芸術性を掲げて欲しい。たくさんのお客に小淵沢に来る目的を作っていただきたい。せつかく東京藝術大学に活性化計画の策定に協力お願いしています。東京藝術大学の力を借りて芸術村を作っていただければありがたい。JRなんかとタイアップし、電車で車を運転しないお客を呼べることに繋がる。

(会長) 第一の議題はこれくらいでよろしいでしょうか。最後ですから私の方で申し上げさせていただきます。

自然に任せておくと小淵沢は、ちょっと駅から離れたところに魅力的なものがどんどん出来てくると思います。美術館やレストランなんかもそうですが、それは自然で自由な流れだと思います。ところが世界共通して言えるのですが、街中はそれに任せておいたら、絶対に衰退します。街中より郊外に車で行った方が楽しいわけですし、移動も自由に出来ますし、様々なものが食べられるわけです。ただ、街中をどうにかしようとすると、かなり民間も行政も投資をしなければいけない。投資というのはお金だけではなくて、人的にもそうですし、知恵もそうですし、投資をしないと街中はどんどん廃れる方向に進みます。ではどうするのかと言った時に、それだけ周辺や郊外に魅力があるならば、周辺の魅力というエッセンスを街の中に小さくても少しずつ点在させて、そこで交流をさせて、交流させたことでまた周辺に新しい物が生まれてくる。外だけでなく中心に、まさにセンターと言うのはどういう意味を持つのか、街中というのはどういう意味をもつのか。都市の歴史から考えればマーケットというものがあって、そこに色々なものが交流して、物々交換して、新たな物を発見して、また周辺に波及していく。農産物もそうですし、アートな作品もそうですし、もう一度中心の価値というのを確認して、行政と民間が一緒になってある程度の財政的な投資もしないと、まずいというのが一般的になっていますので、回遊性の話に加えて、駅の周辺もせつかく今回、北川原先生を中心に駅舎と駅の広場がたいへん美しくなり、見に来ようという人も来ると思いますが、周辺に散ってしまうのではなくて、そこに来た人が30分でも1時間でも滞在出来るような街中の魅力をあと数年の中で芽を出しておかないと、このタイミングを逃してしまつては、まずいということでせつかくの機会ですので、次年度以



降の検討に何か手がかりを見つけないかと聞いていて思いましたので、申し訳ありませんが付け加えさせていただきます。

・小淵沢駅舎・駅前広場について

北川原研究室より説明を行った。

(会長) ありがとうございます。駅舎と駅前広場について今の進捗状況を説明いただきましたけど、これについてご意見いかがでしょうか。

(委員) こんな立派な駅舎と駅前広場が整備されて、こうなってくると商店街と比較対照された場合、どちらが浮いてしまうのかわかりませんが、ぜひ商店街の活性化についても力を入れていただきたいと思います。

(副会長) 時間まで休むところはどこでしょうか。また時刻表はどの位置になりますか。

(研究室) 今考えているのは、2階に上ってすぐ右側に多目的スペースにあります。こちらに設置いたします。

(副会長) 時間が無い時には入れないと思う。多目的スペースに入らないで見える方法はないでしょうか。

(研究室) 駅側の施設については今後サイン計画の検討が必要になります。まだその段階までJRと協議していません。

(北川原) 通常で言いますと、改札の前に切符売り場があります。当然そうなれば時刻を示した電光掲示板などもそこに設置されると思います。

(副会長) ではそこで時刻表を見て時間調整をし、まだ時間があれば多目的スペースを利用すれば良いですね。

それから、小淵沢は非常に寒い地域なので、一年の半分はストーブが必要です。ストーブなどはどこに置きますか。

(北川原) ストーブにするかどうかはわかりませんが、その設備方式についてはこれからの検討になるのですが、暖房が完備される場所と言うのは多目的スペースは完備になります。また改札の外のコンコースについても完璧な暖房になるかは全体の工事費の関係もよりますが、ベンチがありますので休んだり荷物を置いたり出来ます。あまり時間がなくて多目的スペースに行けない時や改札内に入れない事情がある時はここが一番便利です。

(副会長) 私共の経験上、10分から15分前に駅に着きますので待つ時間が出てきます。

(北川原) これはJRの考えなのですが、時間があまりない時には改札内に入っただいて、改札内にも待合室があります。ここも暖房完備ですので待つことが出来ると思います。

(副会長) わかりました。ありがとうございます。

(会長) ありがとうございます。理解していただかないとせっかく設計していただ

いた甲斐が無いので。こんなはずでは無かったと困ってしまいますので。

他にございますか。

(委員) 2階の部分ですけども、都市財産というのとJ R財産と分かれています。都市財産というのは、いずれ北杜市で管理していくと思います。出来た後の問題ですけど、管理の費用などは、ずっとついて回る問題です。ある程度完成後の管理について考えていかないといけないと思います。

(会長) 非常に気になることです。現段階では解っていないことなので、事務局の方からお答えいただきたい。

(事務局) 原則的に北杜市財産とJ R財産と分けてあるのは、底地の問題があります。施設の下土地は北杜市とJ Rがそれぞれ所有します。

現在は駅舎、観光案内所、公衆便所等がそれぞれ外にありますが、駅前広場を整備するにあたって、スペースの確保等のために合築駅舎が良いという判断からこの案を提案させていただいております。ご心配されているとおり、今後のランニングコストを考えますと、北杜市としてそのあたりは十分に考慮しなければなりません。基本的にはなるべくランニングコストのかからない方法を考えていきたい。今現在ではもう少しJ Rと協議しなければならないところがございます。おっしゃられているところは、階段とエレベーターのことだと思えますが、はっきり決まったわけではございませんが、J Rとの共同管理ということで協議を進めています。ただ結果が出ていませんし、今後どうなるかという事は平成25年度につめていきたいと考えている。

多目的なスペースについても、東京藝術大学との話の中で観光案内所と公衆便所だけの合築駅舎というよりは、地域の活性化を含めて考えた中で多目的なスペースがあった方が良いということから検討してまいりました。

基本設計でございますので、今後実施設計に入り、その中でランニングコストや面積の縮小などを併せて検討していく予定です。

(会長) ありがとうございます。今聞いていて思ったのですが、J Rが動いている時は多目的スペースは開いているのですよね。J Rの一体的な管理は必須だと思います。何かしらイベントがある時は誰かいる可能性がある。誰が担うかは今後検討が必要だという理解ですかね。

(事務局) 現時点の予定ですと観光案内所もありますから、北杜市の施設を一体的に管理していく予定です。多目的スペースにつきましては、例えば何かを展示をしたいので借りたいと申し込みがあれば、その方に責任をもって対応していただくこととなります。まだ、窓口がどこになるかわかりませんが、申し込みがある場合には貸し出しをして、料金や貸し出しの方法についてはこれから検討しなければならない話ですけど、駅舎を建ててから考えるのではなく、作る方向で進んでいますので管理について検討していきたい。

(会 長) ありがとうございます。他にどうぞ。

(委 員) 広場に植栽をするような図になっております。山の駅というイメージでは良いと思うのですが、大きくなるような樹を予定しているのか、それとも小さい樹なのか。と言いますのも、前にも指摘させていただきましたが、冬になると駅前でも特に凍るところです。大きい樹になると日陰になってしまう。勾配についてもなるべく緩和するとのことですが、全くゼロではないと思います。特に歩道なんかは歩く人達があります。実は支所の裏も道路の勾配がきついため凍ると車が滑ったりしている。そういう事例もあります。大きな樹はなるべく避けてもらいたい。

もう一つは駅前を石垣にする図になっています。現在ある植栽ブロックは自治会の方で管理していたのですが、今年は出来ないということで市の方をお願いいたしました。放っておくと植樹が大きくなってしまいます。石垣の間に草などが出てしまうと取ることも困難になります。駅前は年寄が多くなっているなかで、地元での管理は難しい。石垣でも私は結構ですので、目詰めをして草木が生えないような方策をお願いしたい。

(副会長) それに付け加えたいのですが、国道を作ったりすると必ずと言って良いほど、歩道があって、その間に木が植えてあります。甲府の街中なんかですと木を植えることは良いとは思いますが、小淵沢ですと周りは山で木ばかりですし、畑は草だらけ、そんな地域にわざわざ木を植えて、手入れをして、金をかけるのは無駄です。駅舎裏の植栽を確かにすばらしいですが、地元の地区で管理するなんてことがきっと出てくると思います。なるべく後で手のかからないようにお願いしたい。

駅舎の階段もそうですが、あとで掃除やメンテナンスの問題が必ず出てくる。根本的な事まで遡ってたいへん申し訳ないが、観光案内所や多目的スペースは駅舎とは一緒に造らず、別に造れば良かった。階段を駅側で造らなければお客さんは上がってはいけない。市はそのくらいのことをJRに言って欲しい。

(事務局) 植栽と擁壁については、また検討して行きます。南側の擁壁ですが、今年も市で管理することになっておりまして、北川原先生とも打ち合わせさせていただきましたが、市としても出来るだけランニングコストは考えなければいけないと思っています。そうは言っても、おもてなしの駅とか色々なコンセプトをいただいております。出来る物については皆様もたいへん楽しみにしているかとは思っています。ただランニングコストについては考えていかなければならない問題ですし、擁壁の中に草が生えるとか植栽するとかは検討しない方向です。実施設計の中でランニングコストを含めて検討して行きたいと思っています。

(北川原) この石垣ですけども、目詰めがされていまして、土が中に入らないようにしていますので、もしかすれば3年位して草が生えることがあるかもしれません

が、基本的には生えない石垣です。現況の擁壁は植栽用のコンクリートのボックスが積まれています。今回計画しているのは一切植栽がありませんので、まったくメンテナンスは必要なく、何十年かして段々と味が出てくるような石垣として考えております。

もう一つは植栽についてですが、大きくなるのを抑制するために、またはきれいに整えておくために手入れが必要になってくると思いますが、ランニングコストを計算しながら考えていきたいです。実は冬場に風が強いので、防風林としての役割が必要だろうと考えまして、けっこう密に植える予定です。ただ高さがそれほど必要ないということで、高くても10m以内というような形にしております。冬の寒い風をどうやって防ぐかということですが、なかなか人工的な方法は難しいと思ひまして、自然の木で出来れば良いなと思ひているのですが、ランニングコストとの関係で厳密に考えていきたいと思ひています。それから先程おっしゃられていた木があると路面が凍るということですが、多分日陰になってしまうという意味だと思います。東側からの朝日が当たらないということだと思いますが、そのへん十分に注意して検討して行きたい。

(会 長) ありがとうございます。現場ならではの声を集めて実施設計の中に反映していただきたいと思います。

(委 員) 今あるトイレのすぐ西に有名な歌碑がありまして、駅の歌を歌っているものですので、この敷地内のどこかへ移設しますよと地元にも言っておりますので、一つ頭に入れておいてください。

(北川原) 現地を調査してサイズなどはおさえてありますので、今後実施設計の中でどこに設置するか指導をいただきながら考えていきたい。

(委 員) 先程の意見と重複するかもしれませんが、四季を通じて広場はどういう管理が必要か細かく調べた方が良いでしょう。先程から聞いていると、植栽は落ち葉が出ます。広場管理をどうするか。駅舎の中の管理であれば、その場所その場所です。多目的スペースは収入がある。だけど他の施設には無いのでどうやって管理をしなければならないのか。落ちが無いようにするにはかなり細かいことまで拾い上げた方が良いでしょう。

(委 員) これは小さな要望でありますけど、駅の北側に市の管理する遊休地があります。ぜひ東京藝術大学に使っていただきたい。そしてそこが膨らんでいきますと、奥の方には共有林などがたくさんありますから、ぜひ検討いただきたいと思ひます。

(北川原) 北側の遊休地の活用につきましては、地域活性化についての議題の時に模型写真や図を写しだしましたけど、積極的に活用していくことを今後考えていきたいと思ひます。

(会 長) ありがとうございます。それでは意見が出尽くしたというところで2番目

の議題である小淵沢駅舎・駅前広場整備についてはこれで終了したいと思います。

・その他

事務局より

- ・推進協議会の設立について説明を行った
- ・市民説明会について説明を行った。
- ・今後の整備スケジュールについて説明を行った。
- ・委員報酬振込先口座の説明を行った。

⑤閉会

会議終了 15時35分